

【調査レポート】

宮古アイランドロックフェスティバル 2016 の経済効果

【要旨】

- 今年で11回目となる「宮古アイランドロックフェスティバル 2016」が6月18日に開催され、経済効果はこれまでで最高の4億3,800万円となった。
- 同フェスティバルでは、これまでと同様に全国的に有名なアーティストなど計9組の出演があった。観客数は約7,400人となり、うち県外客が約3,200人、宮古島以外の県内客が約900人と多くの観客の動員があり、宮古島最大の集客イベントとなっている。
- 今年の経済効果である4億3,800万円を産業別にみると、運輸業8,000万円、宿泊業7,300万円、飲食店4,700万円、製造業4,400万円などとなっている。
- 同フェスティバルは、島外から多くの観客を誘客、島内での消費を促し、宮古島でも最大の集客イベントとして宮古島の観光振興にも大きく貢献している。
- 一方、今後の課題として開催時期が観光のオンシーズンと重なっているため、開催時期の前倒しの検討や、開催期間における宿泊施設の客室数の確保、航空路線や公共交通機関の拡充など、増加する観客を受け入れる環境を整えることがますます必要になると考えられる。

1. 宮古アイランドロックフェスティバル 2016 の概要

2016年6月18日に「宮古アイランドロックフェスティバル 2016」が開催された。2015年は、同年1月の伊良部大橋開通および一部航空路線の廃止の影響などから、同フェスティバルの開催は中止になったため、2014年の10回目の開催に続き今年で11回目の開催となった。

同フェスティバルはこれまで同様に全国的に有名なアーティストが出演し、前回出演の「ケツメイシ」に加え、今年は「ONE OK ROCK」や「東京スカパラダイスオーケストラ」、県内からは「ORANGE RANGE」や「かりゆし58」など計9組のアーティストが出演、またオープニングには地元の高校生バンドも出演した。

今年は開催に合わせて航空会社が那覇ー宮古間の臨時便を就航させたことなどから、宮古島以外からも多くの観客が訪れ、観客数は約7,400人とこれまでで最多となり、そのうち県外客が約3,200人、宮古島以外の県内客が約900人だった。

また、開催に先立って前夜祭が行われたほか、同フェスティバル翌日には同特設会場にて後夜祭が行われた。

■宮古アイランドロックフェスティバル2016の概要

名称	MIYAKO ISLAND ROCK FESTIVAL 2016 ～SAVE THE SEA SAVE THE SKY～
開催日時	2016年6月18日(土)12:00
場所	宮古島コースタルリゾートヒララ トゥーリバー地区ヘッドランド特設会場
出演者	(Main Stage) : [Alexandros]、BRAHMAN、LEARNERS、MONOEYES、 ONE OK ROCK、ORANGE RANGE、かりゆし58、ケツメイシ、 東京スカパラダイスオーケストラ (Opening ACT) : GEPPERZ →地元の高校生バンド
観客数	約7,400人

(出所)MIYAKO ISLAND ROCK FESTIVAL実行委員会 ※出演者は50音順

2. 「宮古アイランドロックフェスティバル 2016」経済効果の試算

(1) 直接支出額の試算

経済効果の試算にあたって、まず、観客による宿泊、飲食、交通費、娯楽レジャー、土産品購入等の支出のほか、フェスティバル会場での飲食、グッズ購入などの直接支出額を推計する。また、会場設営のための費用や広告費など同イベントの開催に要した出費等の直接支出もあり、これらの直接支出額は合計すると2億8,400万円であった。

(2) 経済効果の試算

ここで、(1)で得られた直接支出額をそれぞれ該当する産業別需要項目に区分し、2011年の沖縄県産業連関表を用いて県内各産業への波及効果も含めた経済効果を算出した。

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額に県内での自給率を掛けて算出した額が2億5,300万円となり、これが直接効果となる。

次に直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、会場設営費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業への売上増加へと波及していく。これを1次間接波及効果といい、これが1億1,300万円となる。

さらに直接効果、1次間接波及効果において各産業へ波及した効果は雇用者の所得へと結びつき、これらの雇用者の所得が消費へと繋がり、消費を通して各産業の生産を増加させていく。これを2次間接波及効果といい、これが7,200万円となる。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果であるそれぞれの生産誘発額を合計したものが、4億3,800万円となり、これが宮古アイランドロックフェスティバル2016の経済効果となる。また、これらの効果のうち、原材料やサービス等の仕入れを除いた分が粗付加価値(2億2,300万円)となり、この中で雇用者へ支払った賃金等が雇用者所得(1億1,200万円)となる。

■宮古アイランドロックフェスティバル2016経済効果の試算結果

【単位:百万円】

	経済効果		
	(生産誘発額)	粗付加価値 誘発額	雇用者所得 誘発額
直接効果	253	119	56
1次間接波及効果	113	59	30
2次間接波及効果	72	45	26
合計(総合効果)	438	223	112
直接支出額 (波及効果)	284 (1.5倍) = 総合効果/直接支出額		

- (注) 1. 直接効果は、直接の支出による効果のことで、直接支出額に沖縄県内での自給率を掛けて求める。
 2. 1次間接波及効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。
 3. 2次間接波及効果は、直接効果、1次間接波及効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。
 4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。
 5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得と営業余剰)。
 6. 端数処理により合計は合わなくなることがある。

(3) 産業別の波及効果

今回の経済効果である4億3,800万円を産業別にみると、運輸業の8,000万円(主に航空、タクシーによる移動等)が最も大きく、次いで宿泊業の7,300万円、飲食店の4,700万円、製造業の4,400万円(主に土産品、食品加工を中心とした製造業)、商業の3,900万円などの順となっている。

■宮古アイランドロックフェスティバル2016の産業別の経済効果試算

【単位:百万円】

産業区分	経済効果		
	(生産誘発額)	粗付加価値 誘発額	雇用者所得 誘発額
運輸業	80	35	21
宿泊業	73	34	14
製造業	44	15	6
飲食店	47	19	12
商業	39	22	13
不動産	12	10	1
金融・保険	8	6	3
対事業所サービス	33	22	11
その他の産業	103	60	32
合計	438	223	112

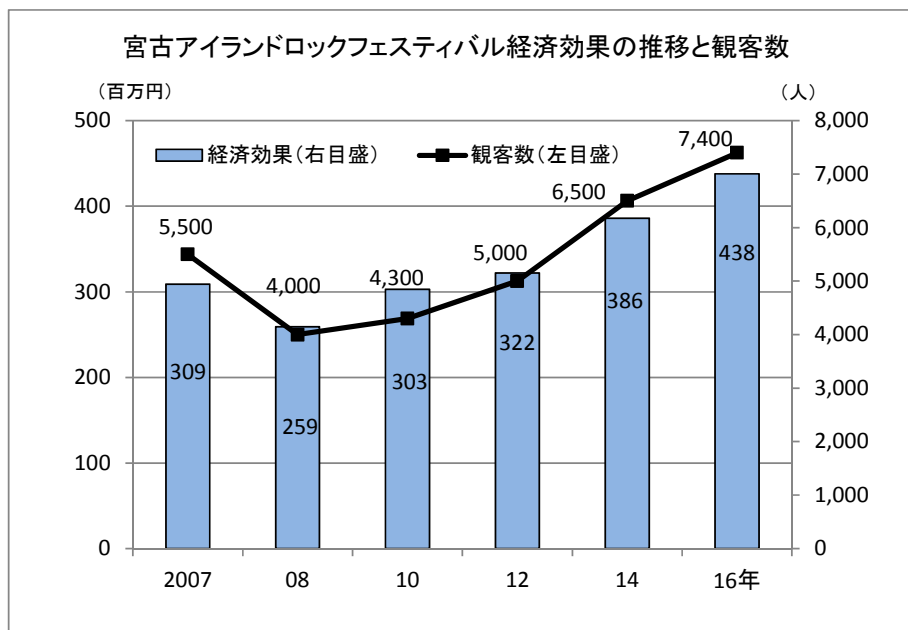
3. まとめ

今年で開催11回目の同フェスティバルは2年ぶりの開催ということもあり、過去最多の観客数となり、大きな経済効果をもたらした。当社ではこれまで、同フェスティバルの経済効果について今回を含め6回試算しており、今回の経済効果である4億3,800万円は過去最高となった。要因としては、豪華アーティスト出演のほか、宮古島以外からの県外客が増加したこと、宿泊単価が上昇傾向にあり宿泊費が増加したことなどが挙げられる。また、沖縄県・宮古島への入域観光客数増加を背景に、通行料金が発生しない橋としては日本最長である伊良部大橋（2015年1月開通）という新たな観光資源ができたことや、観客の増加に対応し臨時便（那覇ー宮古間）が就航したことなどの効果もあったと推定される。このように同フェスティバルは、島外から多くの観客を誘客、島内での消費を促し、宮古島でも最大の集客イベントとして宮古島の観光振興にも大きく貢献している。

同フェスティバルの開催時期はこれまで開催年の6月第3週目週末であるが、近年この時期は観光のオンシーズンになっている。今後の発展のためには、開催時期の前倒しの検討や、開催期間における宿泊施設の客室数の確保、航空路線や公共交通機関の拡充など、増加する観客を受け入れる環境を整えることがますます必要になると考えられる。

また、離島での開催は運搬費用など多額のコストがかかり、人手も必要となるため、魅力のあるアーティストを招き開催を継続するためにも、引き続き行政や企業、住民による地域をあげた全面的な支援が求められる。

同フェスティバルの知名度・満足度の上昇により宮古島を訪れる観光客のリピーターが増えれば、宮古島への経済効果はより大きくなっていくことが期待される。



以上

用語の説明及び注意事項

- ・ **産業連関表**とは、ある特定期間における、一定の地域において行われた、財・サービスの流れ（経済循環）を産業相互間の取引関係を表で表したもの。各産業間の取引を基にした数表（産業連関表）を用いて経済効果を試算する。
- ・ **直接支出額**とは、観客による同フェスティバル会場での飲食費やグッズ購入費のほか、県内での宿泊費、交通費、娯楽レジャー費、土産品購入費等の消費支出、会場設営費や広告費など同フェスティバルの開催に要した費用（支出額）のこと。
- ・ **直接効果**とは、直接支出（消費）されたものはすべて県内で生産されたものではないので、それぞれの支出ごとに当該産業の沖縄県内での自給率を掛けて求めたもののこと。
- ・ **1次間接波及効果**とは、直接効果で支出されたものは、当該産業だけでなくこうした産業に原材料、サービス等を提供している他の産業の売上増加へと波及していく効果のこと。
- ・ **2次間接波及効果**とは、直接効果、1次間接波及効果において各産業に波及した効果は雇用者の所得へと結びつき、これらの所得が雇用者の消費へと繋がり、消費を通して各産業の生産（売上）を増加させていく効果のこと。
- ・ 上記の直接効果と1次間接波及効果、2次間接波及効果の合計が**経済効果（生産誘発額）**となる。
- ・ **粗付加価値誘発額**とは、いわゆる県内総生産ベース（企業の営業余剰や雇用者の所得など）のこと。

【補注】：本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の2011年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類35部門表をベースにしたが、35部門表には主な支出項目である「宿泊業」や「飲食店」等の部門が明示されていないため、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表（404行×350列）から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がないいくつかの部門を統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、消費されたものはそのすべてが県内で生産されたものではないため、産業連関表における各産業部門の県内自給率は100%ではない。しかし、同フェスティバルにおいては、道路輸送や航空輸送（本島―宮古島間）などの運輸関係会社は県内企業を利用し、宿泊費や飲食費などは宮古島内（県内）で消費（支出）されたものことから、運輸業および宿泊業、飲食店などの県内自給率は100%とみなし、経済効果試算の際はこれら産業の県内自給率を100%に設定し直して算出した。

※ 経済効果を求める計算式（投入モデル）は以下の通りである

$$\begin{aligned}\Delta X_1 &= \{I - (I - M)A\}^{-1} (I - M) \Delta F \\ \Delta X_2 &= \{I - (I - M)A\}^{-1} (I - M) ckw \Delta X_1 \\ \Delta X &= \Delta X_1 + \Delta X_2\end{aligned}$$

ΔX_1 : 生産誘発額（直接効果+1次間接波及効果）

ΔX_2 : 生産誘発額（2次間接波及効果）

ΔX : 経済効果（直接効果+1次間接波及効果+2次間接波及効果）

I : 単位行列

A : 投入行列係数

M : 移輸入係数

ΔF : 最終需要増加額（生産額）

c : 民間消費支出構成比

k : 消費転換係数

w : 雇用者所得率